

Gコース <泉・野中地区>

飢渴川から潤井川コース

— みどころ —

水のない飢渴川は、やがて水量豊かな潤井川に変わる。かつては水力発電所の水源として、そして今も用水の水源として利用される潤井川の恵みを訪ねる。

みどころポイント 水辺の風景

スタート

西公民館
神田川町27-4

⑤一番だし

④勝之橋

③衣掛松記念碑

②蛙石

①羽衣湧水池

⑧泉氏神
記念碑

⑨滝戸

⑩大泉寺

ゴール

土手上がる

細い道に入る

車道に出るので車に注意!

陸橋の下をくぐる

道の両側に幟杭がある

黒田用水取入れ口

野中用水

水波之賣神碑

200m

距離: 約5km 所要時間: 約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ ⓘ 駐車場 P 寺院 卍 神社 卍 湧水 ㊿

季節の花 🌸 富士山眺望ポイント 🏔️ 石造物 🗿 番外のみどころ ● ルート —

— コースのみどころ —

①羽衣湧水池

市保存湧水池。方辺川支流。この周辺には多くの湧水池があり、潤井川に注ぎ込み豊かな流れを形成している。豊富な水は生活用水・農業用水として地域を発展させてきた。

②蛙石

蛙の形をした自然石で、天から降って来たという説が伝わっている。蛙石にお参りし、かたわらを通れる水で目を洗うと目がよくなる、疣を洗うと疣がとれるといわれた。

③衣掛松記念碑

浅間大社の祭神コノハナサクヤヒメが出産するとき衣を掛けたという伝説がある。また、武田信玄が駿河国(静岡県)に侵攻してきたとき、戦塵にまみれた衣服を湧水で洗って掛けたという伝説もある。

④勝之橋

方辺川にかかる橋で、戦国時代武田信玄が駿河国(静岡県)に侵攻してきたとき、この橋の所で「もののふのいくさに勝の橋にきていさみわたりてとる泉芹」という和歌を詠んだといわれる。

⑤一番だし

野中用水と泉発電所水路の取水口で、潤井川を堰き止めるように堤防が作られている。泉発電所は、明治41年(1908)に開設された水力発電所で、昭和43年(1968)に解体・撤去された。

⑥一水門

野中用水と泉発電所水路は一番だしで取水し、水路を併用して流れていた。ここには水路最初の水門があった。現在は一水門の手前(一番だし)にも水門がある。

⑦沖の河原

かつて潤井川は沖の河原を境にして、上流部は「飢渴川」、下流部は「潤井川」と呼ばれた。潤井川は、上流部は流入水量が少なく降雨時以外は水の流れがないが、途中から下川や清水川などの豊富な湧水が流れこみ豊かな流れとなる。

⑧泉氏神記念碑

泉の集落の氏神がこの場所に祀られるようになった由縁が記されている。昔、泉の集落と下中里の集落の2集落は同じ場所に氏神を祀っていたが、明治9年(1876)にそれぞれ別の場所に氏神を祀るようになったという。

⑨滝戸

*写真は河川改修工事前のもの

以前は川幅が狭く滝のように急流が流れる渓谷だったが、昭和58年(1983)の河川改修工事の際に川幅が広げられ川底の岩が取り除かれたため、現在その面影はない。

また、潤井川右岸(市立第三中学校付近)には縄文時代から古墳時代にかけての遺跡である「滝戸遺跡」がある。

⑩大泉寺

寺伝によると、身延山に向かう途中の日蓮が一宿した家で説法を行い、それを聞いた家人が発心して市内万野原に一字を建立したことに始まるという。その後、移転・再建を重ね、江戸時代に現在地に移ったという。

番外)黒田用水取入れ口

黒田用水は、方辺川を水源とし、黒田地区の東の外れまでを灌漑する大規模な用水である。黒田用水の取入れ口は市内泉町にあり、滝戸橋近くに掛けた掛樋で潤井川を対岸に渡る。